



<ラムサール通信>

2021年3月7日発行 第205号

●B0B ワークショップ開催のお知らせ●

ベンガル湾湿地パートナーシップ (BoBWeT) の情報・意見交換を行う場として、下記の通り定期オンラインミーティングを開催します。本ミーティングでは、BoBWeT パートナーまたはベンガル湾湿地で活動する関係者を招いて話題提供を行うほか、BoBWeT パートナーのプロジェクト活動進捗や事業企画立案などの意見交換を行う予定です。会員の方であればどなたでもご参加いただけますので、ぜひご参加ください。なお、本ワークショップは英語で実施いたします。

日時：2021年3月18日(木曜日) 15時00分～(1～2時間の予定)

内容(予定)：

第一部：話題提供(スリランカ関係者等からの発表)

第二部：フリートーク(活動報告、事業企画立案、次回ミーティングのお知らせなど)

【Zoom ミーティング 参加用 ID】

ミーティング ID: 834 7297 0945

パスコード: 996710

*参加希望の方は、事前に事務局(ramsarcj.nakamura@nifty.com)に一報ください

●第109回ワイズユースワークショップを開催しました●

2019年からバングラデシュで実施していたトヨタ環境活動助成プログラム事業の終了に伴いバングラデシュ国内で行われた事業評価ワークショップを、2020年12月5日にオンラインのワイズユースワークショップとしてライブ配信しました。本事業はバングラデシュでのカウンターパートであるバングラデシュ POUISH との協働で実施しており、本ワークショップも RCJ とバングラデシュ POUISH との連携で開催しました。

開会挨拶としてバングラデシュ POUISH 会長の Sanowar Hossain さんやラムサールセンター会長の岩崎慎平さんから挨拶が行われ、基調講演としてインテムコンサルティング株式会社社長の土居正典さんから、日本の伝統的な漁法や、持続可能な漁法の紹介と水産 ODA 事業についての紹介が行われました。講演は Zoom を通じバングラデシュの現地住民の方々に配信され、質疑応答では現地バングラデシュの水産省の方や漁師の方々から、日本の漁師たちへの災害時の補助があるかといった質問をはじめ、数多くの質問が挙がりました。対話の中で、日本よりも充実した制度がバングラデシュにはあることも話題となりました。

今回のワークショップは英語で行われましたが、会員の山田真理さんに日本語への同時通訳をご協力いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

【参加人数：約56名】

日本	会員(会場)：9名(尾崎、北本、小山、佐々木優、佐藤奈津子、田辺、土居、中村玲子、武者) 会員(オンライン)：10名(新井雄喜、岩崎、大村、亀山、黒澤優子、黒澤信道、小林、佐藤湧馬、長倉、山田) 非会員：8名(インテムコンサルティング株式会社 社員等)
バングラデシュ	海外会員：3名(Sanowar Hossain、Asaduzzaman Miah、Tapan Kumar Ghosal) 事業関係者：約25名(テクナフ半島の漁師の方々、ダッカ農林水産省役人、等)

●BoBWeT オンラインワークショップを開催しました●

2021年2月20日に、ベンガル湾湿地パートナーシップ (BoBWeT) に加盟するパートナー間でのオンラインワークショップを開催しました。テーマは「Impacts of COVID-19 on Wetland Communities of the Bay of Bengal Region (新型コロナウイルスが与えるベンガル湾地域の湿地コミュニティへの影響)」で、第一部として国別の新型コロナウイルスによる湿地への影響の報告、第二部として調査結果報告、そして第三部としてフリーディスカッションを進行しました。第一部はシンガポールを除くベンガル湾沿岸国 (スリランカ、インド、バングラデシュ、ミャンマー、タイ、マレーシア、インドネシア) におけるコロナ禍での湿地の状況や変化についての事例報告、第二部は共通設問に基づくベンガル湾および流域国の複数湿地で行われた2つの調査結果の報告を行いました。同ワークショップは、10カ国から約25人が参加。日本からは新井卓治、新井雄喜、岩崎、亀山、北本、寺田、中村玲子、武者が参加しました。

第一部および第二部の発表を YouTube で視聴できます (視聴には Gmail アカウントが必要です)。視聴を希望される方は事務局 (ramsarcj.nakamura@nifty.com) まで問い合わせください。

●「People, Wetlands, Wildlife」に、新たに9か所のコンテンツを追加します●

昨年3月に開設された国内のラムサール条約登録湿地を英語で紹介するウェブサイト「People, Wetlands, Wildlife (<https://pwwj.org>)」に、登録湿地9か所のコンテンツが新たに追加されます。3月末までに、厚岸湖・別寒辺牛湿原、霧多布湿原、風蓮湖・春国岱、野付半島・野付湾、濤沸湖、尾瀬、東よか干潟、肥前鹿島干潟、荒尾干潟のページを順次公開予定です。本事業は、インテムコンサルティング株式会社が環境省の野生動物観光促進事業の補助金を受けて実施しているものであり、ラムサールセンターはじめ、日本国際湿地保全連合、ラムサール条約登録湿地関係市町村会議、環境省、各地域の地方自治体が製作に協力しています。コンテンツは英語で作成されていますが、動画や写真も掲載しています。ラムサール条約登録湿地の“今”を発信していますので、皆さまぜひご覧ください。



取材の様子 左から、野付半島、尾瀬、東よか干潟

●第9回アジア湿地シンポジウム (Asian Wetland Symposium)のご案内●

第9回アジア湿地シンポジウム (AWS9) が、2021年6月21日から25日にかけて開催されます。今回はテーマを“Voice of Asia: Changes, challenges, and successful practices”とし、オンライン上での開催となります。現在 AWS 事務局で、シンポジウム内での発表者をホームページ上で募っています。ご関心ある方は、ぜひご応募ください。オーラルプレゼンテーションとポスターセッションの2種を受け付けています。

なお、AWS9に関する主な予定は以下の通りです。

・発表要旨登録締切 (現在募集中)	2021年3月末
・参加者登録締切 (募集前)	2021年5月末

AWSに関する詳細は、下記 URL のホームページをご確認ください。

<http://asianwetlandsymposium.org/>